

名前 () 日づけ (/) できた数 (/27)

使い方 書き下し文を声に出して読んでから、傍線の番号を手がかりに解きます。この話の山は再読文字「且」、二つの反語、そして愚公と智叟の対比です。

あらすじ 家の前をふさぐ二つの大きな山のせいで遠回りを強いられ、うんざりしていた九十近い老人・愚公が、家じゅうの者を集めて「山を平らにしよう」と言い出す。妻は「小さな丘さえくずれないのに、掘った土石はどこに置くのか」と心配し、賢ぶりの智叟は「残り少ない命で何ができる」と笑う。愚公は「自分が死んでも子孫は限りなく続くが、山はもう高くならない。だからいつかは必ず平らになる」と返し、智叟は言葉を失う。ついに天帝が愚公の真心に心を動かされ、神に命じて二つの山を運び去らせた。

一次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

太行（たいかう）・王屋（わうおく）の二山は、方七百里、高さ万仞（ばんじん）なり。本（もと）冀州（きしゅう）の南、河陽（かやう）の北に在り。北山の愚公なる者、^①年（とし）且（まさ）に九十ならんとす。山に面して居る。山北の塞（ふさ）がり、^②出入の迂（う）なるを懲（こ）り、室を聚（あつ）めて謀（はか）りて曰（い）はく、「吾（われ）と汝（なんぢ）と^③力を畢（つく）して陬（けん）を平らかにし、豫南（よなん）に指通（しつう）し、漢陰（かんいん）に達せんこと、可ならんか。」と。雑然（ざつぜん）として相許（あひゆる）す。

其（そ）の妻疑ひを献（けん）じて曰はく、「^④君の力を以（もつ）てしては、曾（すなは）ち魁父（くわいほ）の丘をも損する能（あた）はず。^⑤太行・王屋を如何（いかん）せん。且（か）つ^⑥焉（いづく）にか土石を置かん。」と。雑（ざつ）として曰はく、「諸（これ）を渤海（ぼつかい）の尾、隠土（いんど）の北に投ぜん。」と。遂（つひ）に子孫の荷担（かたん）する者三夫を率（ひき）ゐ、石を叩（たた）き壤（つち）を墾（ひら）き、箕畚（きほん）もて渤海の尾に運ぶ。

河曲（かきよく）の智叟（ちそう）笑ひて之（これ）を止（とど）めて曰はく、「^⑦甚（はなは）だしきかな、汝の不恵（ふけい）なる。残年余力を以てしては、曾ち山の一毛をも毀（こぼ）つ能はず。^⑧其（そ）れ土石を如何せん。」と。北山の愚公（ぐこう）長息（ちやうそく）して曰はく、「汝が心の固（かた）きこと、固（まこと）に徹（とほ）す可（べ）からず。

^⑨曾ち孀妻（さうさい）の弱子（じやくし）にも若（し）かず。^⑩我（われ）の死すと雖（いへど）も、子の存する有り。（こ）又（また）孫を生み、孫又子を生む。子又子有り、子又孫有り。^⑪子子孫孫（ししそんそん）、窮匱（きゆうき）する無きなり。而（しか）るに山は加増せず、^⑫何（なん）ぞ苦（くる）しみて平らかならざらん。」と。河曲の智叟^⑬応（こた）ふる以（もつ）て無し。

操蛇（さうだ）の神（しん）之（これ）を聞き、其の已（や）まざるを懼（おそ）れ、之（これ）を帝に告ぐ。^⑭帝其の誠に感じ、^⑮夸娥氏（こがし）の二子に命じて二山を負（お）はしめ、一を朔東（さくとう）に厝（お）き、一を雍南（ようなん）に厝（お）かしむ。此（これ）より冀（き）の南、漢（かん）の陰（いん）、隴断（ろうだん）無し。

語注 太行・王屋＝中国にある大きな山の名。たいこう・おうおく。方七百里＝七百里四方。万仞＝きわめて高いこと。仞は高さの単位。冀州・河陽・豫南・漢陰・隠土・朔東・雍南＝いずれも地名。指通す＝まっすぐ通じるようにする。魁父＝小さな丘の名。かいほ。渤海の尾＝渤海のはて。三夫＝三人の男。箕畚＝ちりととりともつこ。や石を運ぶ道具。残年余力＝残り少ない寿命と体力。一毛＝一毛一本ほどのごくわずかなもの。長息＝長いため息をつく。孀妻＝夫を亡くした妻。後家。弱子＝幼い子。操蛇の神＝蛇を手にした山の神。帝＝天帝。夸娥氏＝力の強い神の名。隴断＝行く手をさえぎる高い丘。※「汝が心の固きこと、固に徹す可からず」（愚公の言葉の冒頭）は「固より徹す可からず」、^⑬「応ふる以て無し」は「以て応ふる無し」と書き下す教科書もあります。お使いの教科書の説明に合わせることを。

A 語句の意味と読み (1～6)

- (1) ① 「年且に九十ならんとす」の「且」の読み(送りがなも含めて)と意味を書け。
[]
- (2) ② 「出入の迂なるを懲り」の「迂」と「懲り」の意味をそれぞれ書け。
[]
- (3) ③ 「力を畢して」の「畢して」の読みと意味を書け。
[]
- (4) ④ 「曾ち魁父の丘をも損する能はず」の「曾ち」の読みと、下のどんな語と呼応して何を表すかを書け。
[]
- (5) ⑤ ⑦ 「汝の不恵なる」の「不恵」の意味を書け。
[]
- (6) ⑥ ⑪ 「窮置する無きなり」の「窮置す」の意味を書け。
[]

B 句法 (7～12)

- (7) ① 「年且に九十ならんとす」の「且」のように、一字を二度読む字を何というか。
[]
- (8) ⑤ 「太行・王屋を如何せん」の句法名を書け。また、この形は「如何」のどこに対象をはさむか、形で答えよ。
[]
- (9) ⑥ 「焉にか土石を置かん」の「焉」の読みと意味を書け。
[]
- (10) ⑦ 「甚だしきかな、汝の不恵なる」に用いられている句法名を書け。
[]
- (11) ⑩ 「我の死すと雖も」の「雖も」の意味・用法を書け。
[]
- (12) ⑫ 「何ぞ苦しみて平らかならざらん」の句法名と、そう見分けられる形(目印)を書け。
[]

C 主語・指す内容 (13～16)

(13) ④ 「君の力を以てしては、曾ち魁父の丘をも損する能はず」は、誰が誰に向けて言った言葉か。

(14) ⑦ 「甚だしきかな、汝の不恵なる」の「汝」とは誰を指すか。

(15) ⑭ 「帝其の誠に感じ」の「誠」とは、誰のどのような心か。

(16) ⑮ 「夸娥氏の二子に命じて二山を負はしめ」で、天帝は誰に何をさせたか。句法名にもふれて書け。

D 口語訳 (17～20)

(17) ④ 「君の力を以てしては、曾ち魁父の丘をも損する能はず」を口語訳せよ。

(18) ⑧ 「其れ土石を如何せん」を、句法に注意して口語訳せよ。

(19) ⑨ 「曾ち孀妻の弱子にも若かず」を口語訳せよ。

(20) ⑫ 「何ぞ苦しみて平らかならざらん」を、句法に注意して口語訳せよ。

E 内容・記述 (21～24)

(21) ⑬ 「応ふる以て無し」とあるが、智叟が言い返せなかったのはなぜか。愚公の言い分につれて六十字以内で書け。

(22) ⑪ 「子子孫孫、窮置する無きなり」と、直後の「山は加増せず」とは、どのような対比になっているか。四十字以内で書け。

(23) ⑦ 「甚だしきかな、汝の不恵なる」とあるが、「愚公」「智叟」という名づけには、どのような皮肉が込められているか。説明せよ。

(24) ⑥ 「焉にか土石を置かん」とあるが、妻の心配と、⑦⑧で智叟が言っていることは、どこが違うか。四十字以内で書け。

F 文学史・故事 (25～27)

(25) この話の出典の書名と、収められている篇の名を書け。

(26) この話からできた四字の故事成語と、その意味を書け。

(27) 『列子』はどのような系統の書物か。学派の名と、同じ系統の代表的な書物を書け。

【テスト直前チェック】この三つ ①「且」は再読文字。「年（とし）且（まさ）に九十ならんとす」＝「もうすぐ九十になろうとしている」。「九十歳だ」と訳したら×。読みは「まさニ～（ント）す」。②反語が二つ。智叟の「其れ土石を如何せん」＝どうにもできまい。愚公の「何ぞ苦しみて平らかならざらん」＝必ず平らになる。裏の断定まで訳しきる。③「子子孫孫窮置無し」対「山は加増せず」。人は限りなく増え、山は増えない。記述問題の答えは、ほぼこの対比に集まります。